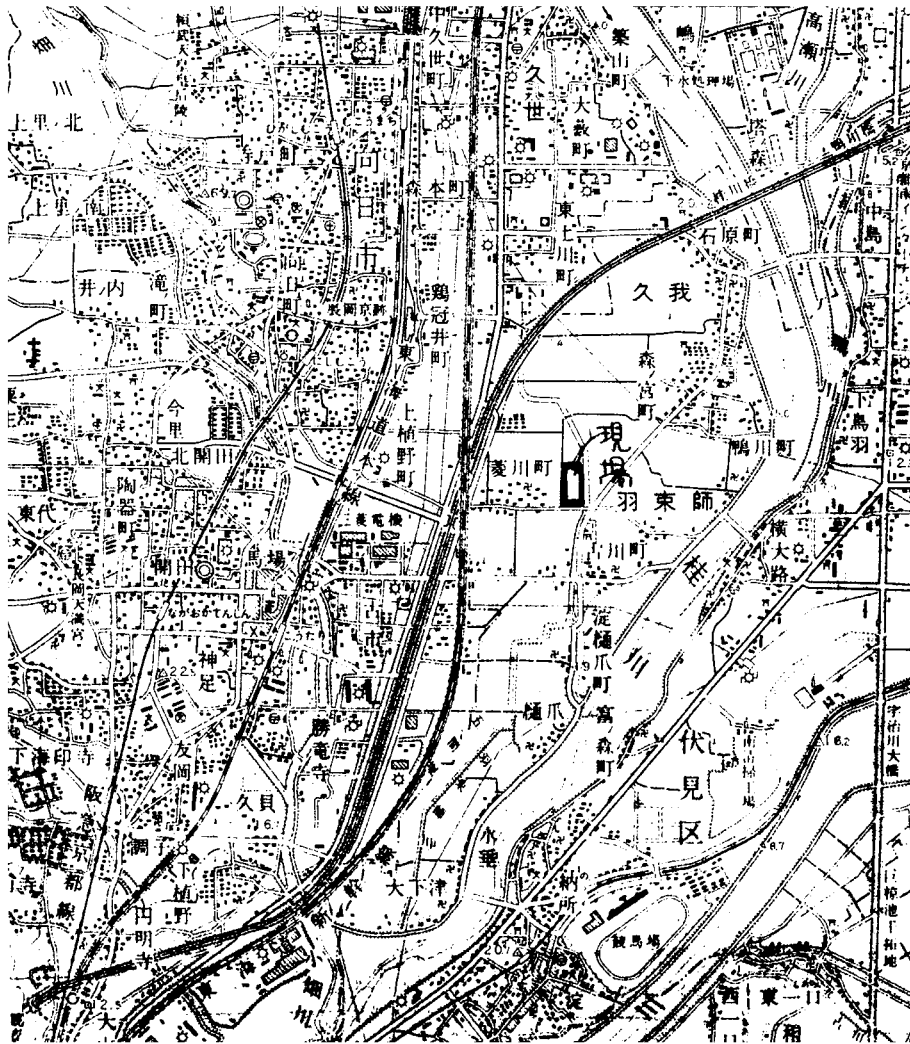


(京都市神川小学校・伏見中学校 分校新設に伴う)
長岡京左京四条四坊

現地パンフレット

77.04.17



1.

今回の発掘調査は京都市神川小学校及び伏見中学校、各分校の新設に先だつ調査として、京都市教育委員会より依頼を受けて、京都市埋蔵文化財研究所が行ったものである。

調査地は、今までの研究により、乙訓郡条里の8条衾手里25・26坪、7条苗生里29・30坪にあたり、現在なお7条と8条の境界は発掘区中央を東西に流れる用水路として残っている。また長岡京の時期には、昭和49・50年度の京都府文化財保護課の向陽高校の発掘成果から、その京域内、左京四条四坊(平安京の三条と四条、東洞院と東京極に囲まれる地域)にあたり、しかも学校敷地の北辺を三条大路が通る事が予想され、また東三坊大路(東

洞院大路)も敷地内を通る事が推測された。

このような予備知識を得て、発掘区の設定を行い、昨年12月4日より今年4月15日まで130日間、一日約25人の人員で学校敷地の約1/4にあたる約200平方メートルを発掘した。以下は今回の調査の成果の概略である。

又. 検出した遺構

(1) 道路(農道)様遺構-発掘区の中央を南北に、北辺では西北方向に幅2~3mの赤褐色の土層が見られる。この土層は断面がカマボコ状を呈し農道のようなものと考えられる。時期は南部では弥生第Ⅳ式の遺物を若干包含し、中央部では、古墳後期の溝に切られているので弥生中期~古墳後期のあいだである。

(ロ) 溝はあわせて4本検出した。このうち中央部における1列は古墳後期もので幅約4m、深さ約50cmである。西寄りの肩口に杭を打ち込んでいる。北部で検出した4例は当初予想していた三条大路の付近で発見されたもので、三条大路の側溝と推測される。残存状況はあまり良好ではないが、築溝時の溝幅はいずれも2m前後と推測される。これを三条大路の側溝とすると、2組の道路が考えられ、いずれも道路面の幅は約11mである。このほかに、南部で2本の溝が検出された。上述の溝が三条大路の予想地点にあるのに対し、これは(平安京の)六角小路のものとする1例は概測116mとなる。

(一) 河と湿地 - 南部では大きく蛇行する幅約9mの河が検出された。時期は平安中期である。また発掘区の東半分は湿地の様相を呈している。形成時期は古墳後期で、長岡京期から平安初期にかけてもほぼ同様の汀線であったようである。肴口からは長岡~平安初期の遺物が多量に出土している。

(二) 建物 - 建物は掘立柱建物が1棟、柵列が4(+1)列検出された。これらは大半が長岡京期から平安初期に属するものである。(略図参照)。建物の切り合いから大まかには3時期に別けられる。

建物	棟間×梁間	廂	棟方向	m/間	備考
1	7×2	南	東西	2.5m (廂3m)	抜取?
3	5×2	東	南北	2.4m (廂2.7m)	3より新しい

5	5×2	北	東西	2.5m (箱2.5m)	抜取り
4	4×2		東西	2.4×2m	抜取り
6	3×1		東西	2.1×3m	
7	6×1		南北	1.6×4.2m	
8	3×2		南北	1.6×2m	
2	(5)×2		東西	2.4m	礎板列
10	3×2		南北	1.8m	
9	(2)×(3)		東西	1.75m	特殊な 柱穴並び
11	5×2	南	東西	2.4m (箱2.8m)	抜取り

中央部で検出された東西方向の柵は北部の溝群のほぼ中間地点にあり、当時の土地区画を知るうえでの重要な遺構である。

(3) 発見された遺物

遺物は長岡京期～平安初期のものを中心にコンテナ約60箱ほどである。

土器は復元完形品は数百にのぼるであろう。土師器では杯・椀・皿・高杯・盤・壺・鉢・

甕などがある。須恵器では杯・皿・壺・瓶子・蓋・甕がある。又、緑釉の鍔付釜・燈などの特殊品のほか緑釉椀・灰釉壺もある。そのほか黒色土器や製塩土器もある。「川丸」と墨書した土器も出土している。

そのほか主な出土品を列記すると、重画文・唐草文の軒平瓦、土馬、石帯、石斧、石刀、石鏃などがあり、馬歯骨なども出土している。

(4)

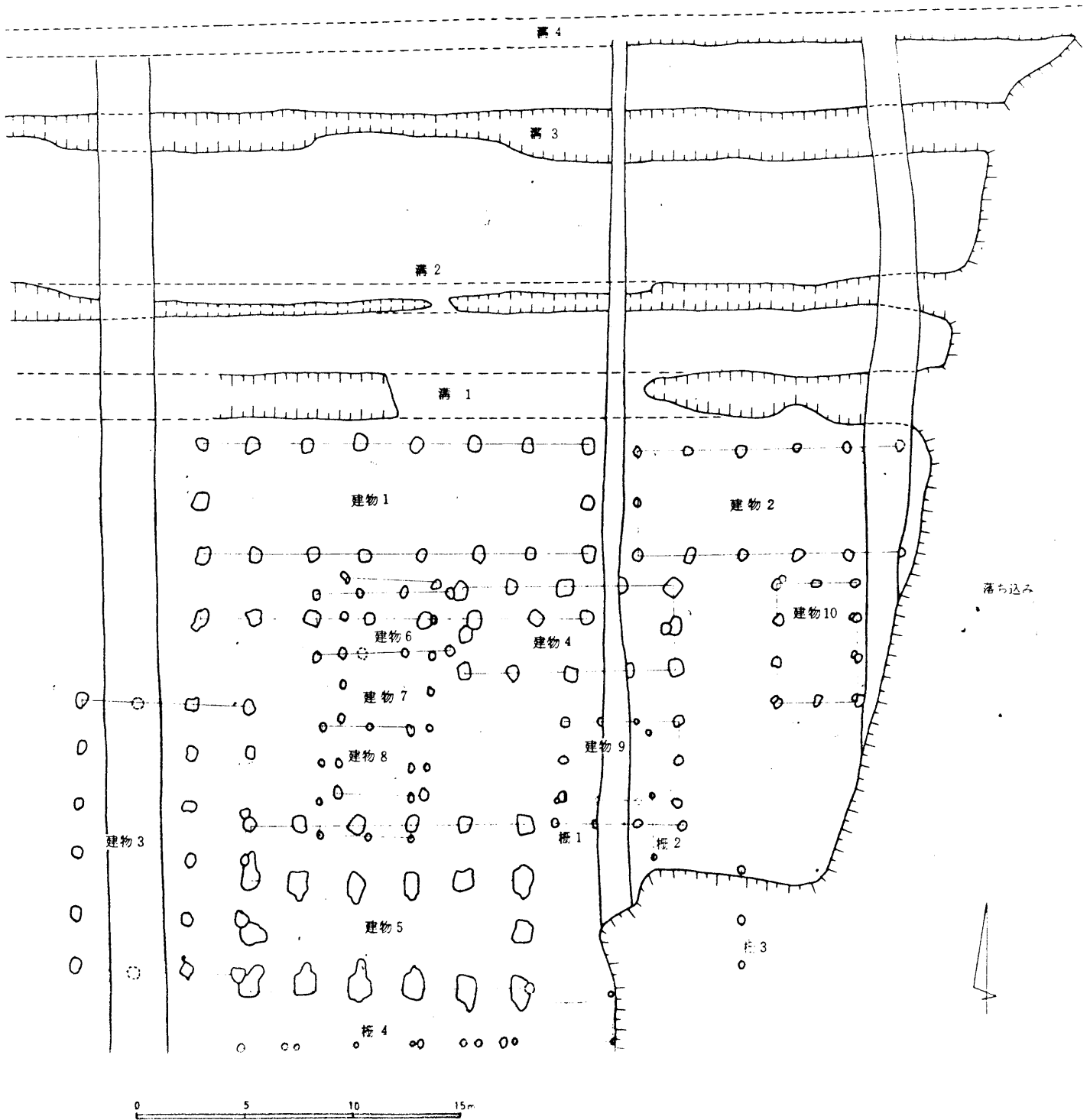
発掘当初は現在現場付近が低湿地であるが、遺構の存在そのものが摸されたが、調査の結果は予想を上回る大成果であった。三条大路や六角小路の側溝と推定される溝群はもちろんの事、それらの溝群に

開かれた土地に存在する10数例の建物や
柵など、他遺跡にまさることもあらぬ成果
である。又、出土品も長岡京期から平安初期の
遺物を中心に、我々に貴重な研究資料を
提供してくれた。

今後、この成果は長岡京の研究には欠か
せぬものとなるであろうが、それと共に今回
の発掘地点の周辺にも遺構の存在が予想
され、機会があるごとに、さらなる成果を求
めて発掘する必要が生じてきた事も確かであ
る。

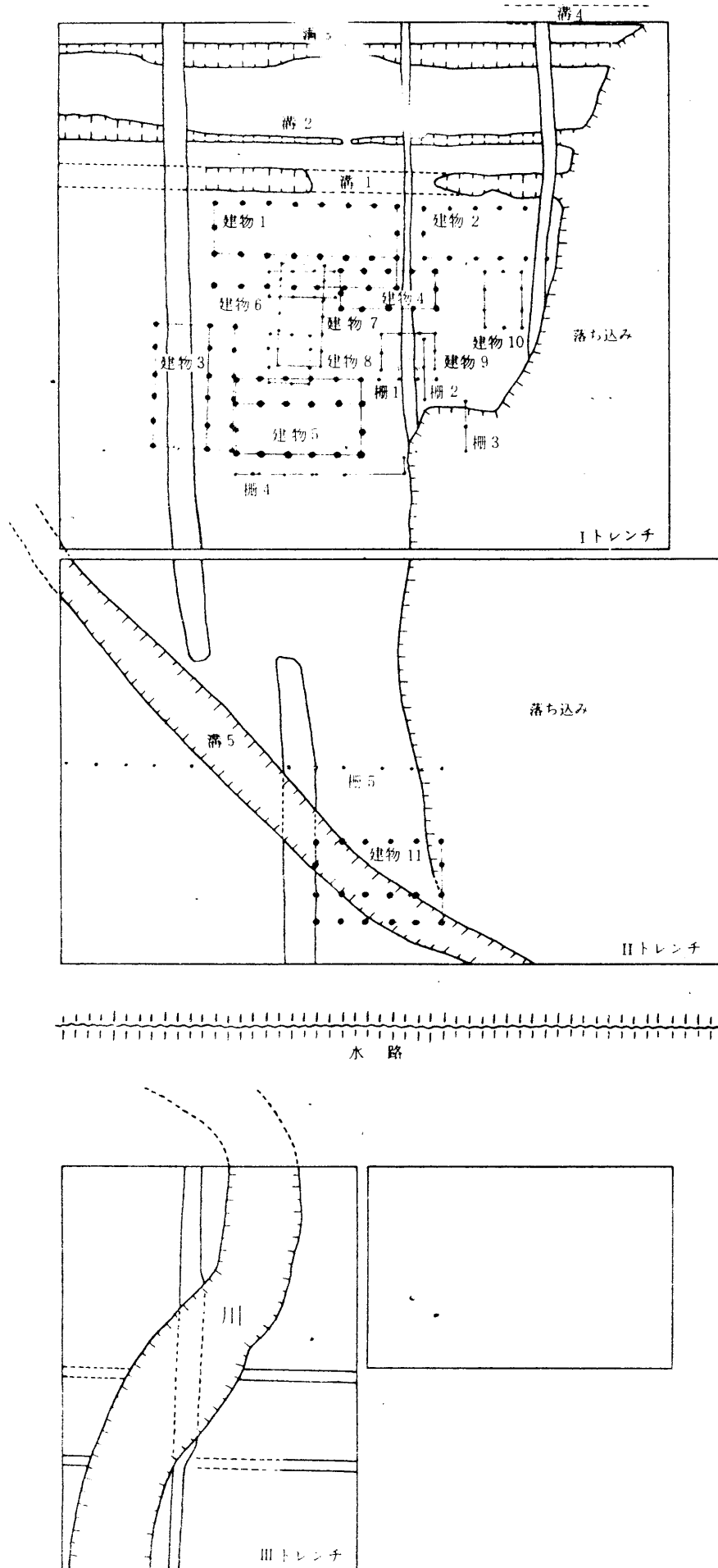
I トレンチ略測図

S = 1/200



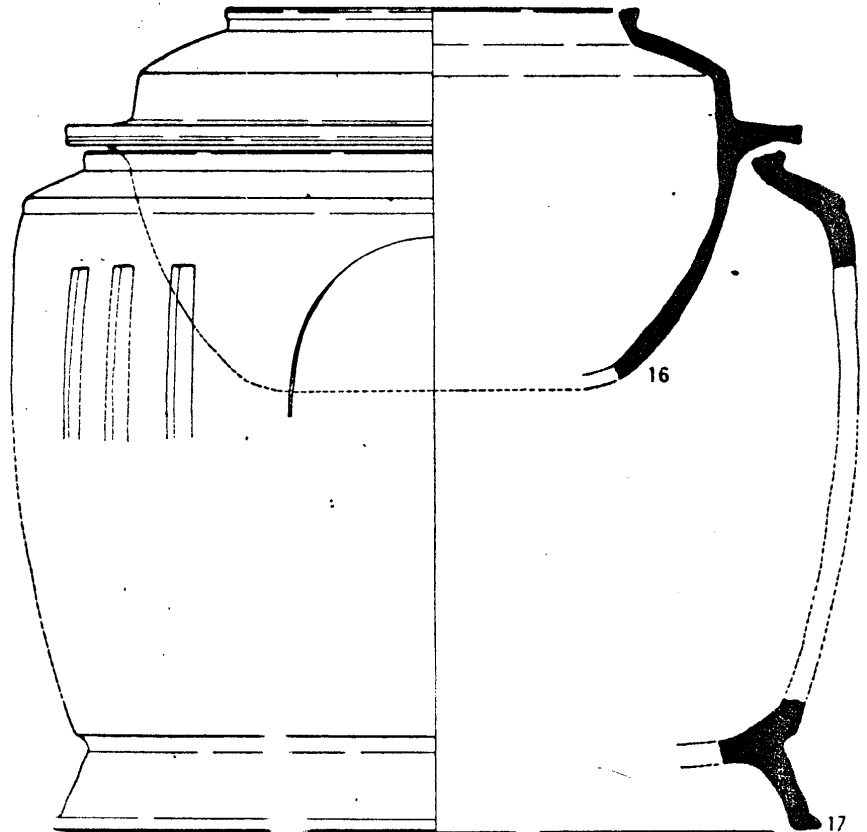
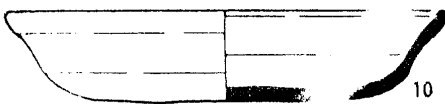
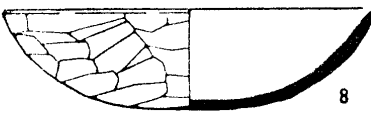
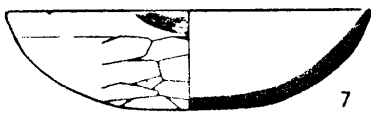
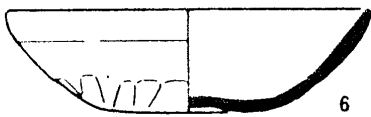
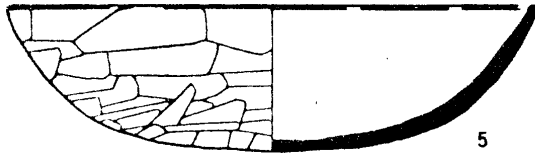
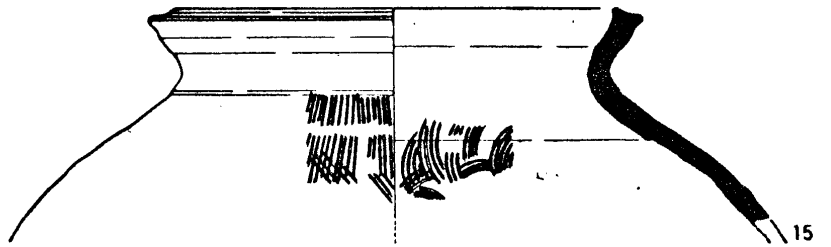
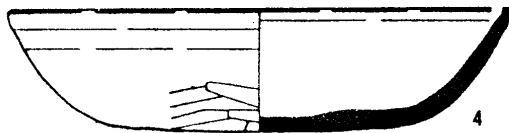
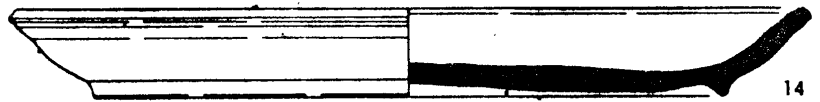
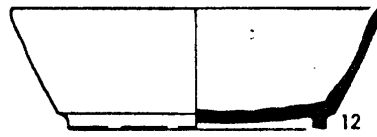
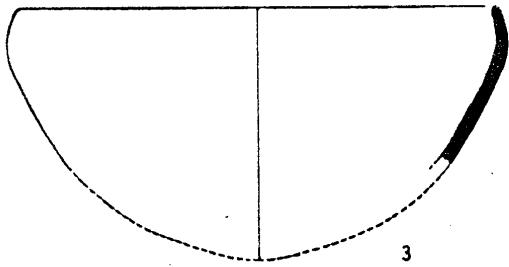
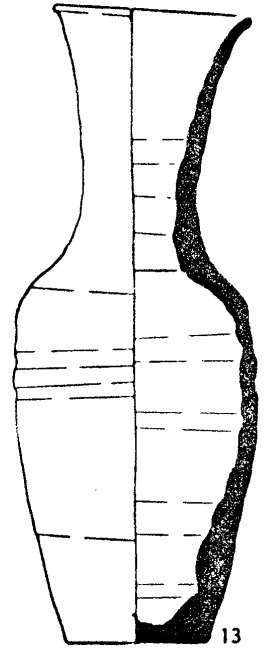
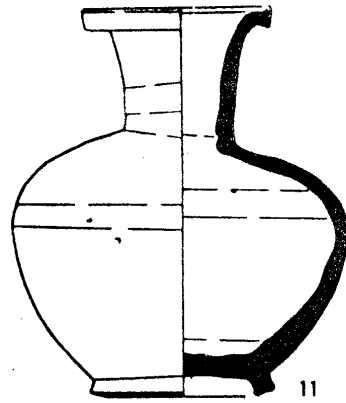
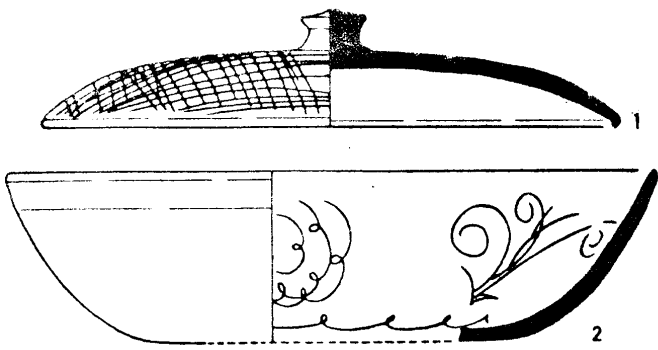
検出遺構略図

S = 1 / 500



トレンチ落ち込み出土遺物

- 1, 4-10, 14 — 土師器
- 2 — 黒色工器
- 3, 11-13, 15 — 埴土器
- 16, 17 — 埴輪



0 5 10 115Cm

占地と時期区分試案

